

女はそれを知っている

亜奈木 寿人



ひんやりとした部屋の空気は、窓を掠めているぼたん雪のせいばかりではなかった。逃げ出すように湯殿から部屋に戻った塩見永二郎は、この宿につくまで、ひそかに暖めていた思惑とは反対に、たったいま湯船で見た、葉子の二十一寸の素肌に奇妙な不安を感じ、悔に似た、自責に苛まれ始めていたからである。それだけに、聞えてくる武庫川の、岩間を走るせせらぎにも、塩見は湯の町らしい情緒も感じなかったし、葉子に抱いた、八女Vへの夢も甦ってはこなかった。

塩見は、神戸の京町にある、丸尾産業の営業課長だった。

ポスト柄、塩見には、招客専用のバーやクラブが二、三軒、三宮にあった。そのうちの一軒、クラブQに、葉子がいた。

二月の初め、その夜も塩見は、客を案内してクラブQのボックスを囲んでいた。

「静かな温泉へ、いってみたい…」という葉子と、何気なく、塩見が約束してしまったのは、その夜の酒のせい、ばかりではなかった。うぶ毛を思わせるような、葉子の柔らかな皮膚の匂いが、あまり塩見に身近すぎたからだだった。

だから塩見は今日だって、武田尾で汽車を降り、宿に着くまでは、たまにはオレだって——、と強いて四十八才という自分の年令を忘れようとしていた。ところが岩風呂で、葉子のあどけない素肌をひとめ見た塩見は、葉子の純潔を見破るまでに、娘の千恵子を思い出してしまった。

女学院に通っている一人娘の千恵子も、葉子と同じ二十一寸だった。瞬間、ヤボなことを思い出したばかりに、年令的な理性が、どつと塩見に戻ってきた。すると、連休を出張と偽ってきた妻の顔や、乗馬クラブの遠乗りを楽しみにしていた娘の顔などが、聞えてくるせせらぎの中にくるくる回った。だから塩見は、戻ってきた理性に従うためには、コップ酒以外にはない、と思った。そのころ葉子は、湯殿の化粧鏡の前で、眉毛をかきながら、

久し振りに、こんなのにのんびりできるなんて、パパのオ陰だわと思ひながら、フツと、小肥りのした、血色のいい塩見の体を思い出し、ブルツと身震いした。

パパだからって、男に違いない。だが葉子の不安は、直ぐ消えた。オ銚子の三本もすすめれば、パパ

PINK CORNER

ここに二枚の風景画があります。一つは「前景」一つは「後景」という題がついています。「前景」の方は世の中でもっとも美しい風景が描かれています。まず「ヴィーナスの岡」ととてもいいたいような二つの丘陵が目につきます。雪のように白いオカの上に、サクラランボが植えてあるのも、目の覚めるような美しさです。「花咲ける騎士道」というフランス映画で今は亡きジェラル・フィリップが屋根の上から、この風景を見おろして「何と美しい谷間よ」と叫んだのもムリではありません。

この「二つの岡」に愛着を感じつつも、目を転ずると、噴火口の跡らしいものが見えます。こんどは森が見えてきます。敬虔な詩人はこれを「神の森」と呼びました。この森に囲まれて一つの泉があります。この泉からは、甘美な蜜がコンコンと湧いてくるという話です。そこから、これまた美しい二つの尾根（オネ）が彼方に続いています。

「後景」の方は前景より単純ですが、しかし、その傾斜のなだらかな曲線の美しさといったら、思わずスキーでもしたくなるほどです。その美しい坂道をおりると、二つの岡がそびえています。ある詩人は「平手でビシヤリとたたいてみたくなる岡だ」といいました。(T)



は直ぐ眠ってしまうんだもの——と葉子は、いかにも確信ありげに鏡の中へいたずらっぽく笑った。葉子が部屋に戻ると、まるで葉子 wait していたかのように、女中たちが食事を運びこんでくると、塩見は、葉子に差されるまま、酒をぐいぐい飲んだ。

翌朝、正午近くなつて、

「昨夜、塩見さんからオ電話いだいたの、今夜、みんなで一泊するように……」、と喋って現れた勤め先の先輩、由美や薫たちに起こされた葉子は、枕許の塩見の置き手紙を見て、やっぱり、パパは立派だわ——。と涙ぐんでしまった。

その日の午後、「パパ、変よ。今朝、社長さんから、基のオ相手について、オ誘いのオ電話があつたのよ、ねパパ、変だとオ思ひにならな……」

須磨の自宅に戻った塩見は、早速、娘の千恵子に、パパ、パパ、

と責め立てられるように呼ばれ、当惑しながら、トボケル以外に手がなかった。だが、

「千恵子、あなたこそ変よ。さアオ父さまオ疲れなんだから、いい加減になさい」とかばってくれる妻の屈託のない微笑を、塩見は美しいと思った。それだけに、ひとときでも、妻や娘を裏切ろうとした塩見の心は、あらたな悔に疼いた。その夜、床についた塩見は、今夜も武田尾の温泉宿で、由美や薫たちとはしやがたてているに違いない葉子をおもいながら、若い葉子を傷つけなかったことを、ひそかに喜ぶのだった。

すると。どうしたことか、全く突然、塩見は妻の肌の匂いが堪らなく恋しくなってきた。……、そんな夫に抱かれながら、四十八才という年令に比例した夫の肉体的な習慣を熟知している妻の知子は、夫を疑いかけ愚かな自分を恥じながら涙を光らせた。

牛のスピードが鍵

厚木冬三



「なに、牛を盗られた?」
春山村駐在所の梅野巡査は、早朝、村人が届け出た盗難被害品が牛だと聞くと眼を丸くして聞き直した。

東西十キロ、南北十五キロの春山村は、戸数約五百戸の純農村だが、神戸に移出して、いわゆる神戸肉となる牛の飼育地として有名なところである。神戸肉は、いう

祝 創 刊 「神戸っ子」

太 陽 製 版 K K

神戸市兵庫区淡町一丁目高架3号 / TEL 製版部 ⑤ 0558
写植部 ⑥ 4416

までもなく味で全国に名を売った名肉。その名肉を提供する牛に対するこの村人の愛情は深い。自分は焼酎を飲んでいても、牛にはビールを飲ますという程である。

だから、春山村駐在所の梅野巡査が、眼を丸くしたのは、このところ牛に對する村人の愛情を読み切っていて、届け出た木山仙吉の氣持が、今あたかも最愛の恋人を失った氣持であろうと、深甚な同情の表現として、驚愕の形式をとったためである。

「それでは、早速、現場検証しなければ」梅野巡査は、こんどは眉間に深く縦皺を寄せて言い、奥に返して現場検証用具が入った箱をとり出して来た。最近では科学捜査が普及していて、駐在所にも一揃いの指紋採取器などが備え付けられているのである。だがこの村では盗難事件など一年に一件か二件ぐらいだから、それは殆んど使われたことがない。

「えらいホコリじゃ」

梅野巡査は、明るみに持ち出した箱のホコリに氣付くと、再び奥に入り台所からハタキをとり出して来て、バタバタとそれを叩き始めた。こうして始められた現場検証であつたが、現場の牛小屋からは、指紋一つ出ず、何らの痕跡もつかめなかつた。

「これは完全犯罪じゃな」

梅野巡査は、非常に貴重な物を盗まれたのだが、それは非常に高度な技術によって盗まれたのであるから、それは敵もまた天晴れであるから、仕方がない、というような口調で言った。

「旦那はん」いつの間にか現場の牛小屋の近くには、隣近所の人達が集まつて来ていた。その中の一人が、梅野巡査に寄つて来て、声を低くめて言うのだった。「うちの鶏が二羽居りまへんがな」

「鶏がな？」

「ええ、それが、今朝四時頃、妙な鳴き方したと思つたんでつけど、喧嘩でもしとるやろう思うて、放つときましてん、そのとき盗られたんと違ひまつしやるか」

「そうじゃな、そうすると、牛を盗りよつたんも、その頃やな。ふうむ。……牛の時速は何キロや」

「その……スピードやがな。一時間にとれくらい行く？」

「そうでんなあ、一時間にせいぜい一里半でつしやるな」

「そうすると一時間五キロか」

梅野巡査は鶏が鳴いたのは、四時だから、四時に盗られて今、七時、丁度三時間過つてゐる。その間に牛泥棒は鶏を乗せて一時間五キロの速度で十五キロ行つたことになる、と計算した。今ならまだ梅野巡査の警察の管内に居るのだまだ汽車にも自動車にも屈かない早速緊急手配が行われ、管内全部の非常警戒が張られた。しかし泥棒の所在は否としてつかめず、鶏と牛は雲の如く消え去つたのである。

「完全犯罪じゃな」

非常警戒から帰つて来た梅野巡査は、出迎えた妻の花子さんに説明した後、くたびれたような声でこう結論づけた。

PINK CORNER

世間では昔から「手」の方が「足」よりも尊いと思われていましたところが元禄時代の俳人松井紋村（もんそん）という人が「足尊手卑（もんそん）」の弁を述べています。

つまり手は「雑役夫」に過ぎない。「足」の方は「歩く」という一役「さえやつていればよい。いわば「上役」である。またオトイレに行つて一番きたないことのおと始末をしなければならぬのも「手」ではないか。夜フトンに寝るときのことを考えても、必ず一番先に休ませるのは「足」の方である。フロへ入るときも、お先に入るのは足ではないか。手から先に入つたという例は聞いたことがない。「今後は足を尊しとせよ」と松井さんは結んでいます。やはり困苦しい昔のことで、手の重要な役割をご存知なかつたようです。ことに恋愛なんかでは「手」がなければどうにもなりません。「時にはよいこともするが、またどんな悪いこともできるその白い手」とヴェルレーヌも歌っています。サクランボをつまむのも足ではダメです。ちよつとしたスキ間からでも、いつの間にかすべりこんで、ヴェルレーヌのいう「悪いこと」に夢中になつてゐるのも手です。ラッパを吹けよ。城門を開け。そして「手」は威風堂々として入城します。

(T)



「何じゃ・牛のお産？」

時刻は午前四時頃である。春山村駐在所の梅野巡査は、また明けやらぬ表の戸を叩く音に、しぶしぶ起きて出て見ると、一人の男が、臨月が迫まったので、牛を陣痛で苦しめだしたので、何とかしてほしい、と言うのである。

兎に角、現場へ行こう、と梅野巡査は制服もそこそこに着て、懐中電灯を手に、男を先に立てて急行した。

現場は、川添いの道で、片方から山が迫っている。車一台通れば

行進いのできないような狭い道を一ぱいにふさいで牛が寝そべり、時々悲しげな咆哮を放っていた。

ところが、その咆哮の前に必ずバサバサという音がする。懐中電灯で照して見ると、二羽の鶏が足をつなぐが、それが羽根をバサバサとする毎に牛が咆哮するのである。「お前だな、牛泥棒は」これまで誰でもが推理するのであるが、次の一句が梅野巡査を名探偵にした。「そして、この鶏の羽根で、牛をバサバサやまして、スピードを出し、早いこと逃げやがったな」

花時計

花で飾るにふさわしい都市へ

松井 高男

「花いっぱい」とか「しあわせの花」とかいった運動が、急に声高く叫ばれ出した。神戸の町も、これらの声に乗って、やがて歩道や、市電、バスの停留所などに、美しい花々が咲き乱れるようになるかも知れない。

花といえは、いつだったか、ウイン・オペラ・ハウスの記事を何かの本で読んだことがある。都心にあるこのオペラ・ハウスの換気には特別な仕掛けがあって、場内の空気は、すぐ窓の外のリングストラーゼの並木道から取られるのではなく、はるかドナウ河の分流であるウイン川の、両岸にひろがるバラやヒヤシンスの花園の

空気が、長い地下道を通って運ばれてくるということだ。こうした空気のなかでは、モーツアルトの音楽がひとしおかぐわしいものとなることだろう。うらやましいことである。

こんな記事を読むと、日本人の「文化生活」とは、いったい何だろうかと思う。だがいまは、ぜいたくをいうまい。花の種がまかれるというだけでも、うれしいことではないか。ついでのことには、市民が「市」をつくるのだということへの明確な認識が、「花の種」から生まれてくるといっそうよい市民の市政への積極的な参加によって、神戸市を「花で飾るにふさわしい都市」にしなければならぬまい。

(神戸新聞学芸部長)



祝 創刊「神戸っ子」

三 急 出 版

TEL ⑥ 0897

お菓子もうまいがゴルフもうまいと!
ほめられた……ヒロタ



中井大阪市長より優賞の市長杯を受ける店主 ヒロタ



ゴルフアーガー一番をぶ

ヒロタの

チョコレート
マ ロ ン
ア ベ ッ ク

ゴルフボール

各種共 50 円



洋菓子のヒロタ 元町通三 TEL(03)2340

宝塚歌劇

芸術祭賞と

テアトロン賞に輝く

「華麗なる千拍子」

みんなであうたいましよう

幸福を売る人(主題歌)

作詞 高木史朗

悲しい時に 明るい歌を
涙のほほに 笑顔の歌を
淋しい心に 楽しいリズムを
苦しい人に 幸福の歌

おいらは ヴァガボンド

自由な詩人

いつも貧しいヴァガボンド

だけど おいらは

幸福の歌 売って歩く

ヴァガボンド

夢はいかが 希望はいかが

明るい笑顔お安くしましょう

幸福の歌 お買いなさい

そうすりゃ この世は

いつも天国

愛と光 あふれる世界

喜びみつる この世

お買いなさい 幸福を

お買いなさい 幸福



写真はけんらん豪華なシヨウを繰りひろげた
「華麗なる千拍子」のファイナーレ。

二人のヒロイン

明石照子／訪問記 壽美花代／写真



(自宅でくつろぐ明石照子)

昨年十一月、ロシアン・バレエ育ての親である故バラスフ・ニジンスキー氏の未亡人ロモラさんの招きで、憧れのパリに遊んだ宝塚スター明石照子さん(雪組)は、きょうも舞台で「幸福を売る人」を口づきみながら楽しかったパリの想い出にひたっている。

—憧れのパリの印象は—
明石 招ねてくださったロモラ夫人の急病で予定より一週間早く切りあげたのでパリ滞在期間は正味八日間だったけど—そりゃもう「ステキだった」の一言やね。モ

ンマルトルの石だたみを踏んだのも、凱旋門からシャンゼリゼ通りを歩るいたのもまるで昨日のことのようだわ。

とにかく思う存分パリの空気を吸ってききました。十二月のパリっていうのは、灰色で暗く、いつまでもたつても夕方みたい。でも全体に町の照明が立派ね。ちょうど銀座の明るさ程度がずーと続いているのよ。なんといってもモンマルトルの丘の夜景がキレイだったわ。それとパリってところは公園が美しいですね。凱旋門からシャンゼリゼの一番下のところにある公園なんかでも小さいけど美しいわ。またどこのお店も女店員もキレイだったし、街頭の花売屋さんも珍しく、かれんなスマイルが花盛りだったのも情緒的でした(想いはパリに飛びワットリした表情)

—どこに泊ってらしたのですか—
明石 ガステイプリオン通りというところにある「ホテル・ロティ」でした。この辺はとも高級なところなんで招ねかれた身としては気がひけました。(笑)何しろパリは評判どおり物価が高いのにはビックリしたわ。

—ずっと和服で通されましたか—
明石 始めはそのつもりでいたんだけど、タビの洗濯が大へんなのと、食事のときにジロジロ見られてノドに通らないなどで、ほとんど洋服で通したわ。第一動きやすいものね(笑)

—やはり商売がらあちこちの劇場やナイトクラブを見学してこられたでしょうね。—

明石 それはもう一通り欲深く見て歩るいたわ(笑)モガドールのオペレット「ベラ・エレン」アルファンプラ劇場ではヘンリー・サルバドールのシャンソン、世界的な社交場ナイト・クラブ「リド」のショウ—ここでは踊り子たちがキレイな羽毛をせたくにつけてるし、髪飾りがキレイだし、衣装には本物の宝石がフンダンに使かっているのには驚くやら、うらやましいやらでした。それからカジノ・ド・パリやナイト・クラブ「エルボン」のレウや、モンマルトルにあるシャンソン小屋で有名な「エクリエーズ」にも行っただわ。シャンソン小屋っていうのは昔からあったもので、狭い小屋がけにピアノ一台置いて、お酒を飲みながらシャンソンに聞きほれるといった趣向で、とても大衆的な。いまでも昔の面影が残ってい



(写真はパリの雰囲気にとろけるタカラジエンヌ 明石照子。本屋さんの前で。)

て、気楽に歌が楽しめるという点で楽しかったわ。
—ずい分、見学してらっしゃたようですが、舞台人としての収穫はいかがでした—
明石 なんといってもパリはセミ・ヌードの世界ですからね(笑)
男性はといえば、道化師か奇術師ってところだから正直いって「男役」の私には参考になるような点

はすくなくったわ。強いていえば町を歩いている男性の「センスのよいおしゃれ」の方が参考になったし、目にもついていたわね。たとえばスカートを巻いていても、ベレーなどをかぶっていても、すこしもキザな感じがなく、小イキでスマートですよ。やっぱりパリジャンはセンスがいいな—って感心させられたわ。

—それじゃ「女役」に転向したいと思いませんか(笑)—
明石 そうわ想わなかったけどね宝塚が欧州公演するって話もありますが、女性がする「男役」のお色気というのは案外アチラにはうけるんじゃないかしら。

—ところで明石さんは、ハワイ公演などの海外旅行の経験があまりだから、大丈夫だったと思うのですが、ショッピングで「メイド・イン・ジャパン」というような失敗はありませんでしたか—
明石 そんな失敗をやらかしては大へんと、よくマークをみて「念には念を」と慎重でした(笑)

でも物が高いでしょう。日本の七、八千円のが三、四万円もするんですから、欲しくても手が出なかったわ。しゃれたブラウスや、ブローチなどを少し買った程度。最高の買い物は、日本というトリコット・ナイロンの布地のドレスで、これがステキなのよ。座ってもおシリが出ないし、シワがよらないしね。お値段も高かったけど品質がいいんでしょねギゲンです。

(明石さんは、大阪芸能記者会が関西のミューシカル、レビユー、ショーの優秀作品やとくに活躍した人を表彰する第四回「レインボー賞」で演技賞に選ばれ、二月九日表彰されました。)



芸術祭賞を受けた「華麗なる千拍子」で素晴
らしい女の魅力をふりまき歌って踊る

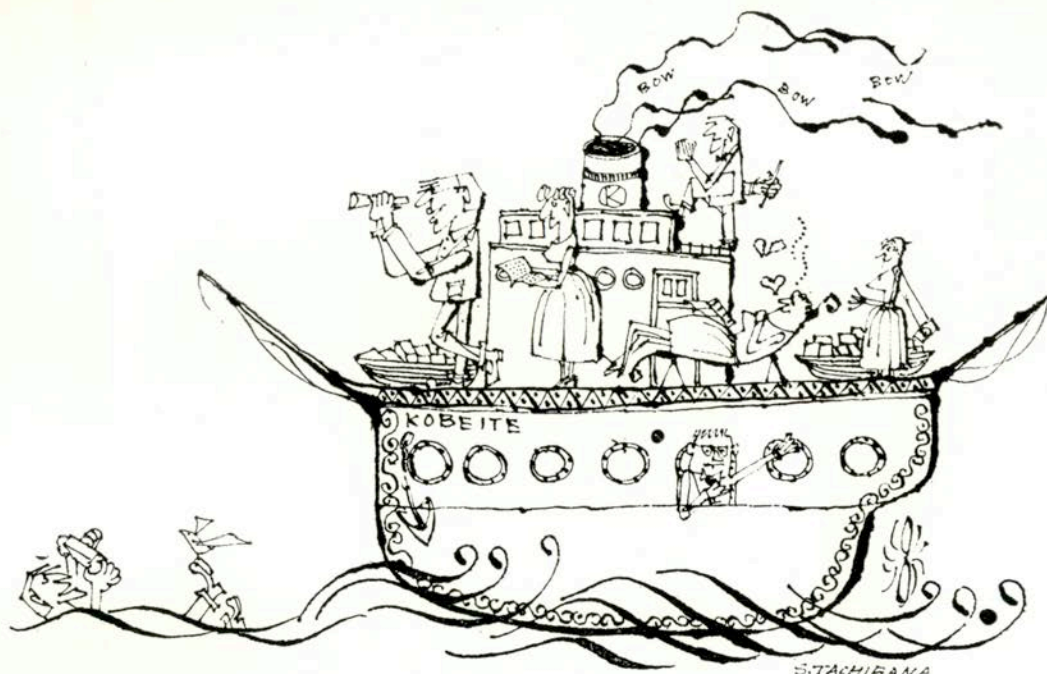
寿 美 花 代

「神戸っ子」の発
行に色々とお世話
いただいた方々

青木重雄
大淵ツトム
古川喜英
林西楽

小寺勝義
塩川達
滝井孝
永井七

中西勝
芳賀政夫
松井高男
宮地裏二



編集後記

三十年も前に、神戸の粋人が想いをこらして、作っていらした、モダンな「神戸っ子」という町のP・R誌がありました。

もちろん町のパンフレットの草分けです。その名跡を継いで、神戸を愛する人々の雑誌「神戸っ子」の船出です。

船出にあたって「神戸っ子」O・Bの人たちが、娘のお嫁入りのように心配してくださいました。それに、いままでこうべ「元町」を一年にわたって育ててくださった、元町の方たちにも大へんなお力添えをいただきました。

このご声援を船にいつぱい積み込んで「神戸っ子」の出帆の汽笛が港にひびきます。ヌーベルパークをわけて「神戸っ子」は、元気にスタート(Y・K)。

「物すぎな。やめとけ」とご心配くださるオジさまもありました。でも「神戸っ子」は「若さと」情熱でもって走り出しました。

カメラの松下嬢も、営業の小泉嬢も、そして私も三人そろって生粋の「神戸っ子」——どなたです「三人寄ればかましい」なんて失礼なことをおっしゃるのは、

私たちは「文ジュのちえ」の方ですわ。フアイトと実行力は殿方に負けません。(チヨツとリキましたかしら……)とにかく、みんな張り切ってます。「日本一の雑誌」にするんだと——(K・I)



●ニューコロナが当る!



神戸トヨペット

5周年謝恩セール

ニューコロナと家庭電化製品が
当る豪華なプレゼント、明日の
くらしに夢を生む抽せん券がお
求めの新車（ニューコロナ・マ
スターライン・トヨエース）に
もれなくついております。

○期間

昭和36年2月15日より
昭和36年5月15日まで

○賞品

特賞（一名様）

ニューコロナ乗用車

一等（五名様）

NRR-OOS型電気冷蔵庫又は
HEI-63型ステレオアンサンブル

二等（二〇名様）

SS式N241型電気洗濯機又は
HEI-32型ステレオアンサンブル

三等（六〇名様）

MC315P型電気掃除機又は
T-70型トランジスタラジオ

記念品（もれなく贈呈）

キャップスルエンジンオイル
18リットル罐

○発表

昭和36年6月10日神戸新聞紙上

神戸トヨペット株式会社

本社

神戸市兵庫区水木通2

尼崎営業所

T E L 代表 6 四一四一

姫路営業所

T E L 4 8 二四五六

姫路市総社本町68

T E L 姫路 二二六九

美しい
店で
楽しい
お買物



daimaru
神戸店

こうべ・もとまち
電 (3) 8121

